



# 埼玉支部報 第13号

目次

第30回全国支部懇談会報告	1	埼玉100山報告 西谷山	13
平成26年度支部合同会議報告	9	親子登山おすすめコース	14
支部登山指導者講習会報告	10	第31回全国支部懇談会のご案内	14
JAC主催山行における登山計画書の提出		飯田副隊長講演資料から抜粋	15
および事故連絡について	11	会員/会友異動状況	16
四季の山(夏)報告	11	支部事業案内	16
		忘年(清掃)山行案内	16

## 第30回全国支部懇談会埼玉大会、200人が秩父に集う

### 埼玉支部会員へ深謝

支部長・実行委員長 大久保春美

10月18日19日の2日間は素晴らしい秋空でした。「お天気も実力のうち」と言ってくださった方がいましたが、この晴天は全国支部懇談会を主催した私たちと30回を迎えた日本山岳会へのご褒美だったかもしれません。埼玉支部の総力をあげて準備した大会は、盛大にそして和やかに多くの思い出を残して終えることができました。埼玉支部会員の皆様には、それぞれの持ち味を活かし存分に力を発揮していただき、心より御礼と感謝を申し上げます。

多くの参加者の方々から、楽しかった、来てよかった、交流を図ることができて有意義だったとの感想を頂くとともに、埼玉支部会員への感謝とねぎらいの言葉をいただきました。参加者に満足していただけたことは、主催した私たちにとっては何よりも嬉しいことです。

支部設立から日が浅く、まだまだ会員同士の顔が見えにくいなかで、今回の事業を通して会員同士の交流が図られ、今後の支部活動に弾みがついたように思います。今回、62名の会員が実行委員会に加わり、積極的に力を発揮していただきましたが、これこそ、本事業の最大の成果であると思っております。今後ますます埼玉支部の会員間のコミュニケーションが深まり、活発な活動と連携がうまく絡み合っ、より発展していくことを楽しみにしております。

おわりに、秩父市在住の新井信太郎会員からは多くのご支援を頂戴し、華やかにそして秩父の酒と文化を堪能できたことに、心より感謝申し上げます。







## ■概要報告

副実行委員長 松本敏夫

第30回全国支部懇談会・埼玉大会は平成26年10月18日(土)～19日(日)、埼玉支部主催により秩父市のナチュラルファームシティ農園ホテル及び秩父周辺の山域で開催された。全国から26支部(本部を含む)199名の会員・会友が秩父に集合し、懇親を深めることができた。受付周辺では写真展、自然保護委員会、アルパインスケッチクラブ、陸地測量部の活動資料が展示され、多くの参加者が足を止めていた。

開始式では大久保春美埼玉支部長による開会の挨拶に続き、公務が重なったため急遽欠席となった久喜邦康秩父市長からの全国支部懇談会が盛会に開催されたことを祝すメッセージが代読された。来賓の紹介では、秩父市役所産業観光部の宮城敏氏、秩父まるごとジオパーク推進協議会上席推進員の吉田健一氏、埼玉県警察山岳救助隊副隊長の飯田雅彦氏、日本山岳会・森武昭会長及び節田重節副会長が壇上で紹介された。その後、講演会となった。

講演(1)では、「埼玉県の山岳遭難事例と安全対策」と題し、山岳救助隊の飯田氏から、埼玉と群馬の県境にある赤岩岳での遭難者救助活動をDVDによる臨場感のある映像で紹介され、遭難救助活動の経験を基に、登山届の重要性、セルフレスキューの実施や未組織登山者の山岳会への勧誘などがユーモアを交えて講演された。

講演(2)では、「日本地質学発祥の地、秩父からの報告」と題し、秩父まるごとジオパーク推進協議会の吉田氏により、風土や歴史に基づく秩父の多様な自然や山と地質との関連など興味深い報告があった。

懇親会では、埼玉支部の野村孝義副支部長から主催者を代表して挨拶が行われたのち、森武昭会長から来賓の挨拶を頂いた。秩父の地酒「秩父錦」による鏡割り、支部参加者代表として関西支部の

重廣恒夫支部長による乾杯で懇親となった。秩父で活動しているグルーポ・パンカリータスによる南米地方のフォルクローレの演奏や秩父夜祭で演奏される秩父屋台ばやしの迫力で一気に会場が盛り上がった。最後に、次回の全国支部懇談会を主催する四国支部の尾野益大支部長の挨拶と一本締めで中締めとなった。

翌19日は“秩父晴れ”と云うべき好天に恵まれ、両神山コース(61名)は、白井差登山口から5班に分かれ、昇竜の滝を越え、オオドリ河原、水晶坂、ブナ坂などの樹林帯を登る。折しも秋の行楽シーズンと重なり登山道は混雑してはいたが、全員元気に両神山山頂についた。武甲山コース(63名)は生川の武甲山登山口から5班に分かれて、表参道を登り、御嶽神社から武甲山展望台につく。帰路は御嶽神社から長者屋敷ノ頭を経て、秩父札所28番・橋立堂に極めて順調に下山した。秩父鉄道浦山口駅まで歩き、電車で西武秩父駅に集合した。琴平丘陵コース(42名)は4班に分かれ、ホテルから「ふるさと歩道」を辿り、札所11番常楽寺を經由し、羊山公園では武甲山、両神山、城峰山の眺望を堪能した。武甲山資料館や牧水の滝、芝桜の丘に立ち寄り、十月桜に送られて琴平ハイキング道南下り、旧武甲山登山口から札所12番・野坂寺を經由し、西武秩父駅についた。

自然に恵まれ、独特の文化を育んだ秩父で開催された第30回全国支部懇談会・埼玉大会に、北海道から九州まで全国の会員・会友の皆様に参加頂き感謝致申し上げます。埼玉支部創立5年目にこのような全国大会を主催できましたことは、支部員の役割分担を通して支部の団結を強め、経験豊かな他支部の皆様と交流を深めることにより、貴重な体験を共有できたことは、今後の支部活動にも得難い経験になったものと感謝しております。

## ■両神山コース 報告

CL 正田範満

朝起きて空模様を確認したら、昨日同様素晴らしい秋晴れでした。6時朝食、7時に2台のマイクロバスでホテルを出発した。8時過ぎには白井差登山口に到着し8時25分には予定通り5班に分かれて、1班より順番に出発した。白井差ルートは両神山の登山道の中では、最短コースの一つで約850mの標高差を感じさせないほど管理が行き届いている登山道である。稜線まで心配な箇所は無く、昇竜の滝、大又、おどり河原、水晶坂、ブナ平と順調に標高を上げて、各班ともペース配分も良く歩いている。下見の時より紅葉の色具合が良くなっており、秋晴れの日光に映えて美しい。武甲山が谷間越しに見え始めると、武甲班の無線も入り始め、向こうの山行も順調に進捗しているようである。『仕事道』との鞍部に着くと、既に1班のメンバーが登頂を終え下山してきた。夢見平あたりで食事をするそうで、下山路へと向かっていった。鞍部より頂稜を進むと、すぐに日向大谷からのコースに合わさり、頂上直下の鎖場へと辿り着く。頂上が狭い上に、本日は好天で我々山岳会のメンバー63名を含めて登山客も多く、ここで渋滞を発生させてしまった。山頂到着まで入れ替りの列で時間が消化していくが、眺めが良いので皆さん気にならないようである。右から甲武信岳や金峰山等の奥秩父の山、遠く八ヶ岳、御座山、浅間山等が確認できた。鎖場の途中でも下りの人とすれ違いながら、狭い山頂にやっと辿り着いた。最後尾の到着時刻は11時でした。順調に約2時間半で到着できたのが嬉しい。これで本日無事全員登頂となったことを安堵した。記念写真の撮影等慌ただしく行い、眺めも余り楽しむこともないまま、山頂滞在時間は約5分で下山開始とした。12時には鞍部より白井差登山口に向けて下山開始をした。来た道を忠実に辿って下り、最終のメンバーが2時過ぎにマイクロバスに戻ることができた。途中で怪我する人も無くバスで西武秩父駅に到着し解散をした。参加者全員が満足顔で別れることができたと思う。

## ■武甲山コース 報告

CL 高橋 努

「こちら1班、大杉の広場に到着、休憩に入ります」「こちらJPRなんとか・・・、感度ありましたら応答願います」とトランシーバーと無線のやり取りが続く。すれ違う登山者が「おっ！」という目で見ている。「へえ、日本山岳会ですか。どちらから?」「北海道から九州まで」「それはご苦労様です」などというやり取りも多い。秋のハイキングシーズン、しかも快晴である。多くのハイカーと遭遇したが、紳士的なマナーを守り、決してご迷惑はかけなかったはずである。

武甲山コースは、総勢63名のメンバーが5班に分かれて下見登山で想定した通りのペースでゆっくり登った。それでも皆さんの足取りは軽く、丁目石を確認したり、大杉の幹回りを試したり、談笑しながらの歩行ながら予定より少々早めに山頂に到着した。快晴だが暑くもなく寒くもないという絶好の日和である。山頂付近の葉も少し色づき始めていた。神社前でお弁当を広げて、昨夜の賑やかな懇親会の様子を思い出しながら上を見上げると青空がきれいだ。

下山は休憩もしっかり取り、ゆっくり下った。これが雨だったらぬかるんで滑るので大いに気を使ったところだが、皆さんの足取りもしっかりしており安心できた。下りだすと両神山からのトランシーバー交信まで飛び込んできて、思わず「了解しました」と返信しそうになって慌てた。両コースとも予定よりやや早いペースで下っており、まさに順調である。最後の急なジグザクを下りきるともう安心。林道をお喋りしながら歩き、橋立堂で宮崎支部グループとお別れした後、浦山口から電車で帰路についた。皆さん、秋の極上のハイキングを楽しみ大満足だったと思う。

全体リーダーとしては、多人数のパーティーながらトランシーバーと無線で動向が完璧に掴め大変助かった。何とんでも各班のリーダー、サブリーダーが実に見事にパーティーをリードしていただき心から感謝の言葉を送りたい。

## ■琴平丘陵コース 報告

CL 松本敏夫

琴平丘陵コースは、1班10名、2班13名、3班9名、4班10名、総数42名の班分けで農園ホテルを出発した。「ふるさと歩道」の鬱蒼とした樹林帯をゆっくりとしたペースで歩き、左手の展望が開けると、丸山や二子山を遠望し、逆光ではあったが武甲山の雄姿を眺めることができた。稲荷神社の赤い鳥居をくぐると秩父札所11番・常楽寺につく。秩父34ヶ所観音霊場の甲午歳総開帳のためか狭い境内は予想外に若い巡礼者で混雑していた。

羊山公園では武甲山資料館を団体割引(100円/人)で見学し、清水武甲記念碑の前で約30分間休憩となる。左手に姿の池を見下ろしながら、両神山、武甲山、城峰山などの眺望を堪能し、三等三角点や秩父事件顕彰碑では地元会員ならではの詳細な説明に耳を傾け、牧水の滝を見学する。十月桜が咲く羊牧場周辺や芝桜の丘を見下ろす高台で、各班とも昼食となった。風もなく好天に恵まれた青空のもと、班ごとに写真撮影となる。

琴平ハイキングコースに戻ると車道から樹林に覆われた登山道に変わる。小ぶりの自然石に彫られた馬頭尊がある坂戸峠から足場の悪い急坂を林道に向かって慎重に下る。民家が散在する林道を過ぎると薄暗い樹林の中の旧武甲山登山口につく。雑草に覆われた石碑や説明板を確認したのち、滝の入橋を渡り、押堀川に沿って下る。後方に武甲山が遠ざかり日野田橋を渡ると、大勢の巡礼者で賑う秩父札所十二番・野坂寺である。西武秩父線の下をくぐり、石碑の並ぶ三叉路を左折して国道140号を横断歩道で渡り、一方通行の車道を進む。多少足取りが重い参加者もあったが、14時過ぎに全員西武秩父駅についた。

福島支部の平野さん、茨城支部の諏訪さん、東海支部の佐野さんが、帰りの時間に合わせてコースを途中で離れた。各班に渡されたトランシーバーで進捗を確認する必要は生じなかったが、時折、両神山や武甲山の各班間で交わす連絡が入り、進行状況が理解できた。

## ■実行委員会の舞台裏・こんな準備をしました

本部班 富樫信樹

全国支部懇談会の大久保実行委員長、松本副実行委員長をはじめ、両神山班、武甲山班、琴平班、本部班の実行委員の総力を挙げて準備をして開催し、参加していただいた全国の会員の方々喜んでいただき、私たちのおもてなしの気持ちがお伝えできたことは何よりでした。

この事業を実施したことにより、埼玉支部の会員相互の絆が育ったことも大きな収穫でした。

準備は1年前から開始し、秩父市で200人が宿泊できるホテルを確保してから具体的に何をしなければならぬか?その作業スケジュールの構築を開始しました。

開催にあたり最も大切なことは、実務を担当する実行委員50名を確保することでした。そのために支部会員に向けて参画のお願いの案内状をお送りしました。参加希望者は開催の時期が近づくにつれて増加して最終的には62名になりました。これらの実行委員に向けて実行委員長の作成した手引きにより合計5回の実行委員会を開催し、メンバー全体と各班の打合せも含めて全員が理解し、役割分担をしました。

舞台裏で準備した出来事を紹介します。

### ① 安全対策

事前準備として、登山中の医療・安全対策のために、9月3日に実行委員を対象にした恵会員による講習会を実施し、登山中に起こるけがの対処方法や感染防止について学ぶとともに、事故発生時に速やかに且つ適切に事故の状況を伝えるための「緊急連絡カード」の記載や登山に携帯する医薬品やサプリメントの使用方法についても学びました。

また、高齢会員が多いことや、緊急時に個人の情報を持っていないことと人命救助優先の観点から、登山に参加する人については「健康情報・緊急カード」の提出をお願いしました。これは、既往症や服用している薬、緊急時の連絡先を書きいただき、医師である

金子会員らがチェックをしたうえで、各コースCLに健康情報の提供とカードを持参してもらいました。なお、このカードは、解散時には各自に返却しました。

## ② 通信環境の整備

3つの登山コースを設定するにあたり、常時山行状況を本部が把握することと、事故の発生時にスピーディーに対応するため、3登山コースと本部を結ぶ無線システムを遠山会員が担当して通信環境を整備しました。両神山・武甲山・琴平丘陵と本部とが通信できる所に遠山会員が中継のポイントを置き、コースに計5台の無線機を配置して常時本部が入山や時間決めの通信や下山等の情報の確認ができました。これ以外に各登山グループ内の連絡のために20台のトランシーバーを準備して登山班内での意思疎通も実施できました。

## ③ ロビー展示

全国からおいでいただく会員に、埼玉や秩父の紹介をするために準備しました。

### ・写真展示

新井信太郎（会員・雲取山荘経営者）の山岳写真パネル3枚、山口定男（会員）まつりの花火2枚

### ・自然保護委員会 埼玉の絶滅危惧種、森づくり活動報告、シカ食害実態調査、自然観察会など

### ・陸地測量部 「塚山」調査報告、「陸測部法」第1号から第8号、陸地測量部時代発行の地形図等

### ・アルパインスケッチクラブ

埼玉支部と同好会のコラボ「埼玉の山並みを描く」12点をイーゼルで展示事前にクラブで秩父の山のみを描くスケッチ山行を実施して出展の準備をしました。

## ④ その他

参加者の名札を準備するにあたり、埼玉県障害者スポーツ協会から210枚をお借りしました。通常の名札の2倍の大きさで従来品では片面使用で支部名とお名前ぐらいの表示ですが、今回は両面を使用して支部名、会員番号、氏名、山行コース、懇親会席名、部屋

番号、朝食場所・時間まで表示でき皆さんから親切で解りやすいと好評でした。

一年間の準備で開催ができ、自分達にとっても良い経験ができ、やってよかったと感謝しております。

## ■実行委員の感想

### 埼玉支部のパワーで無事終了

野口勝志

まず今回、安全登山が実行できたことを良しとしましょう。全国、北は北海道南は九州から140余名の会員が参集しました。皆さんそれぞれ満足して帰られたことと思います。埼玉支部が幹事となることが決まってから、一昨年の千葉、昨年の静岡と運営のノウハウを探るため執行部のメンバーは各集会に参加しました。

埼玉という地域の特性を出すにはどうしたら良いか、定例の支部委員会で喧々がくがくの議論を交わしました。その結果が今回のプログラムでした。一番の難題は50余名に及ぶボランティアを集めることでした。実行委員会のメール、郵送による依頼、個人のネットワークによる電話作戦、これらが奏功し所定の人数が確保できたことで大きな課題が解決できました。あとは、メイン会場の決定、講演講師の決定、アトラクション、懇親会、登山コースの設定、参加者の募集と集金等々。一言で言うところのことですが、これらを詳細に落とし込むことは大変な力仕事になります。一つひとつつぶされていきました。課題を共有するため5回に及ぶ実行委員会を重ねました。かくして集会を迎えましたが、これは支部会員全員のコラボレーションの成果と言えましょう。それと、三つの班にドクターや医療関係者が同行し安全面で配慮しました。

また、両神班ではヒマラヤ経験者が各班のリーダーを務めました。通信面では携帯が通じないルートを考慮し、臨時のアマチュア無線の中継局を設け不測時に備えました。そういう点で埼玉支部は多士済々ということでしょうか。今回のプログラムではいろんな意味でノウハウが蓄積できたのではないのでしょうか。支部の大きな財産になるでしょう。

ついでに「コミュニケーションの力」について一言。

現執行部の面々は呑ベエぞろいですね(かく言う私も末席を汚していますが)。毎月の定例委員会が終わると必ず馴染みの居酒屋に直行。そこでは公私にわたる話題に及び談論風発、それぞれの理解を深めることが出来ました。酒が入るとバリアがとれ、いい面、そうでない面も含めてオープンになれます。今回の全国支部懇談会でも酒が入って一段と盛り上がりましたね。だいたい山ヤと酒とは切り離せないのでしょうね。懇親会では多くの酒の差し入れがあり、参加の皆さんも満足できたことでしょう。ご同輩の皆さんこれからは酒を友としましょう。

まずは、埼玉支部とバックスの神に乾杯。

## ■実行委員の感想

### 実行委員をして

富田容子

私は、18日は受付係り、19日は武甲山班の本部救護担当として参加致しました。

4月に行われた埼玉支部の総会時に実行委員の募集があり、いつもよくして頂いている諸先輩方からのお誘いで、ついうっかり申し込みをしてしまいました。後からよく考えたら「全国支部からベテランが集まる懇談会」の実行委員なんて、経験不足ですし、事前会議も出席が難しかったのでちょっと厳しいのでは、とこっそり後悔しておりました。しかし、状況やスキルに合わせた役割を頂き、細かく相談にも応じて頂いたので、無理なく参加することができて、良い経験を積み沢山の方と新しく出会うことができました。普段連絡を取らない方とも多く交流することができ、距離が縮んで嬉しかったです。

さて、当日ですが「参加者の皆さんは、きっと移動で疲れて到着されるだろう」という私の予想に反し、皆様疲労など全く感じない状態で到着して、他の支部の方との久しぶりの再会を楽しんでおられました。嬉しそうな表情を見ていて、この時に遅ればせながら懇談会の意味を理解した感じでした。その場所に一緒にいられて空気感を楽ませて頂きました。

2日目の山行は天候にも恵まれて幸先よいスタートとなりました。

救護担当者として、何がなんでも負傷者・体調不良者が出て欲しくなく、心の底から念じ続けました。その気迫からか、普段の行いか、どの班も下見の時よりもかなり早いペースだったにも関わらず、大事なく心地よい疲労感で下山する事ができました。

秩父西武駅で出迎えてくれた本部の実行委員の皆さんに会えた時に、やっと安堵できたのが忘れられません。

今回、円滑に運営できたのは、早い段階から準備に関わっておられた実行委員の皆様、関係して頂いたすべての方のご尽力と思います。沢山の経験を積むことが出来ました。ありがとうございました。



\*\*\*\*\*

**皆さん、お疲れ様でした！**

\*\*\*\*\*

【平成26年度支部合同会議報告】

**支部長・事務局長合同会議  
有意義な情報交換となった**

事務局長 富樫信樹

平成26年9月20日・21日に、四谷のプラザエフ会議室において表記会議が開催され、大久保支部長と事務局長の富樫が出席したので、概要を報告します。

① 会長挨拶:

1年半で半数の支部を訪問した。任期は来年の3月までです。最も重点を置いたのは会員の増加と財政の安定。YOUTHはJACの中核となる事業である。支部活性化と山行等における次期リーダーの育成が重要である。

② 高齢化による会員の減少

平成25年度の会員数は5,056名だが、平均年齢は14年間で10歳上昇した。この傾向が続くと今後10年間に60歳代から70歳代が1414名の減少となり現状の会員数を維持するためには500名以上の入会者を増やす必要があり、このままでは財政が破たんする。

③ 財政を維持するためには寄付金、助成金を増やす必要がある。公益法人なので寄付をいただいで寄付金控除として寄付金額の半分ぐらいの税金の還付がある。

④ 日本山岳会主催の山行にかかわる登山計画書の提出及び事故連絡について

対象になる山行は支部が主催する山行(同好会・個人山行は含まない)

(11ページの記事を参照のこと)

⑤ 団体登山保険に加入してほしい。万一の事故で金銭面の対応が必要である。

⑥ 日本山岳会入会金は通常会員は20,000円だが、年会費は入会した月により異なるようにした。入会の承認:月末までに申請のあった人は翌月の理事会で承認され、支払等の手続きが終了した新入会員は次の月の「山」に掲

載されます。

⑦ 支部事業の助成金制度について

支部主催事業で会員増強や若手リーダー育成に繋がる企画については助成を25年度、26年度、27年度として200,000円を助成する。

(登山教室・登山研修・リーダー育成)

⑧ 創立110周年記念企画「新日本山岳誌」の第2版 刊行:各支部の精通者に改訂の確認作業を依頼する。依頼:2014年10月中。原稿締切:2015年1月末。発刊:2015年11月ごろ

⑨ 国民の祝日「山の日」が2016年8月11日に決まったが、有意義な日にするために各支部では何ができるか、「山の日」をどう活性化に生かしていくか考えてほしい。

⑩ 「親子で楽しむ山登り」は、独立行政法人国立青少年教育振興機構が行う「子どもゆめ基金」から886万円の助成金を得て実施している。助成は最長5年間継続が可能。各支部からお勧めするコースを出していただき100山にした。(14ページ参照)

⑪ 日本山岳会は会友制度を採用していないが、今後、会員の高齢化・減少・財政の悪化等から外国の山岳会にみられる正会員・準会員・アソシエ制度を検討してみたい(森会長)

⑫ 支部員数、平均年齢、見込新人数、支部友制度に関するアンケート結果の説明があった。

会友について各支部から現状報告:地域の会員での支部会友、会員でない会友がある。いずれも会友から支部会員への移行を推奨しているが、会友のままを望む人もいる。

⑬ 会員増強に対する具体策を32支部からあげている。講習会・講演会の開催での勧誘、登山教室、講演会、サテライト懇親会、公募登山、山岳講演会、博覧会、勉強会、登山講座、イベント等。他に、山行時に声をかけるは9支部、山仲間や知人に声をかけるは14支部、会友を正会員に格上げは7支部あった。HPで一般向けの登山教室情報を流して入会を勧めた例や、山小屋やスポーツ店に支部の案内

パンフレットを置いてもらうというのもありました。

(※ 埼玉支部は、リーフレットを雲取小屋に置いてもらえることになりました。)

- ⑭ 平成27年度の全国支部懇談会は、四国支部が4月11日12日に小島烏水祭に続けて開催する。本部では、32支部有るので今後は規模が小さくてもよいので年2回の開催を検討している。29年度は茨城支部が開催を表明しています。

## 【山行・集会委員会報告】

### 第1回支部登山指導者講習会に 埼玉支部から3名が参加

日時：平成26年9月13日(土)

14:00～17:00

場所：日本山岳会ルーム

主催：支部事業委員会

参加者：13名

(埼玉支部は、山崎、古川、高橋の3名)

講演1 「登山におけるリーダーの法的責任」

講師：溝手康史弁護士

#### ① 登山における法的責任

民事では、債務不履行責任、不法行為責任などがあり、注意義務違反、予見可能性、結果回避義務、因果関係等が問題となるが、基本的に自己責任が原則である。

刑事では、業務上過失致死傷、過失致死傷、保護責任者遺棄罪などがあるが、社会や登山形態の変化、国民の意識、裁判所の考え方の変化などの影響もある。

#### ② リーダーの態様

自主登山か引率登山の登山形態の区別が重要である。登山主催者やリーダーはこの点を十分に認識しておく必要がある。

ア. 自主登山とは、山岳会や仲間同士の

登山であり、リーダーの安全確保義務は生じない。ただし、例外的に安全配慮義務が生ずる可能性はある。

イ. 引率登山とは、ツアー登山、ガイド登山、実地講習会・研修会、登山教室、学校登山などであり、安全確保義務が生ずる。

ウ. あいまいな登山形態とは、会員外も対象とした登山教室、あいまいな組織の登山、講習会卒業生の会など。実態的にはこれが都合が良いため多いので問題になる。

#### ③ 危険の承認

登山は危険を承認して行うべき行為であり、自己責任が原則となる。18歳からは自分のことは自分でできるのが前提であり、「連れて行ってもらった」は法的責任ではない。ただし、障がい者等をボランティアで引率する場合は、注意義務が生じ、民事責任が生ずる可能性が高い。

引率登山の場合は、危険の承認が困難であるとみなされる。包括的な免責同意書は効力を持たない。

#### ④ 質疑から

ア. 岩登り講習会で会員外を参加させるのは不可。登山初心者も不可。

イ. 自主登山で悪天時増水の沢を通過し事故の場合、通過するかは自分で判断すべきことであり自己責任の範囲である。

講演2 「失敗しない登山計画の立て方」 講師：遭難対策委員 味岡進氏

元警視庁機動隊山岳救助隊員で現日本山岳会遭難対策委員から奥多摩での事故事例の紹介および山行計画の立て方の注意があった。事故の場合は怪我なら119番を優先した方がよいとのことであった

なお、第2回の実地講習は不参加。

(報告 高橋 努)

【新たな取り組み】

**支部事業においても、本部への登山届の提出と事故の際には速やかな連絡を**

日本山岳会（各委員会、各支部）が主催する山行（同好会山行、個人山行等は含まない）に際し、本部へ登山計画書を提出することになるとともに、遭難対策委員会に事故連絡窓口が設置されました。

これは、日本山岳会の機能一つとして万一事故が発生した場合の状況の把握と関係機関からの問い合わせ等にスムーズに対応できるためのもので、埼玉支部では、先般の全国支部懇談会、その後の支部山行においても登山届の提出をスタートしました。今後も登山リーダーの方が提出を担当することになりますので、本部ホームページにより詳細をご理解ください。

◆登山計画書の様式指定はない。留守本部の担当者名と連絡先（複数名）の明記すること。

◆登山計画書の提出方法

①メールによる提出（Word、Excel、PDF形式）  
・メールタイトルには「入山年月日（西暦・半角）、委員会名／支部名、目的山域」を記入。

（入力例：20140901、遭難対策委員会、剣岳）

・送付先アドレス：keikakusho@jac.or.jp

②ファックスによる提出

・ファックス番号：03-6893-7627

◆事故発生時の連絡（連絡が必要な事故）

①事故者の救助において、公的機関等（警察、消防、山小屋等）に救助を要請した場合

②予定下山日時を過ぎても連絡がなく、遭難対策本部を立ち上げるなど、遭難救助活動を開始した場合

◆連絡方法

下記の電話番号に連絡する。

第1順位：090-8810-1786

第2順位：080-2595-2090

第3順位：050-3805-1817

何れも個人の携帯で対応するので、状況によっては必ずしも応答できるとは限りません。そのため第1順位から第3順位まで連絡用の電話番号を設けています。まず第1順位の電話番号に掛けていただき、不在時には留守電に委員会名・支部名、担当者名を残した上で、第2順位におかけください。第2順位も不在の場合は第3順位へお願いします。

◆連絡内容

以下の内容について、お尋ねします。

- ①山行主催者・報告者・連絡先
- ②事故日時・場所
- ③事故者・状況・容体
- ④現場状況
- ⑤救助要請先・救助隊動向 等

【四季の山・夏】

**埼玉 100 山の 6 山を登る**

山行集会委員長 高橋 努

今年度の四季の山・夏山は、昨年順延となっていた甲武信ヶ岳を中心とした山行を計画した。夏山は、支部山行の上半期のメインであるが、甲武信ヶ岳は奥秩父の盟主であり不足はない。しかも今回のコースは、木賊山 2469m、甲武信ヶ岳 2475m、三宝山 2483m、東破不山 2318m、西破不山 2141m、雁坂嶺 2289mと埼玉 100 山が 6 山も入っている。さらに、三宝山は、埼玉県の最高峰である。なかなか意義深い山行であり、根性を据えて登らなければと気合を入れた。

8月2日当日は参加者11名（男性8名、女性3名）が、それぞれの集合地より3台の車で西沢溪谷入口駐車場を目指したが、夏休みに入った土曜日、当然の渋滞につかまり相当な時間差ができてしまったので、それぞれ先着順に登山開始していただくこととした。私は2番目の出発となったが、歩き出すとすぐに大粒の雨。2時間ほどは外から

と内からでびしょびしょ状態になった。コースは、歩きやすい徳ちゃん新道をとったが標高差約1200mを登り続けるのは容易ではない。木賊山を越えて汗まみれであったが、3組が前後して16時過ぎには甲武信小屋に到着し、ビールで乾杯にありついた。真夏の奥秩父は、登りだしは暑さにやられるが、稜線まで上がってしまえばさすがに涼しい。下界の猛暑を忘れて熟睡できた。

2日目は、小屋の前で見事なご来光に迎えられてスタートした。まずは甲武信ヶ岳に登り、更に三宝山に登頂。ここは、ほぼ平らな樹林の中で何も見えず残念な山頂だが、少し戻って脇道に入り、三宝山に登ると視界が開けて見事な景観が広がる。一同、歓声を上げて大満足だった。北ア、南ア、八ヶ岳、上州の山々、奥秩父、そして富士の秀峰と見渡す限りの山々である。



三宝山 山頂

一旦甲武信小屋に戻り、一部の人は握り飯2個で1000円という何とも贅沢な弁当を受け取る。早出をしたのでまだ7時半である。今日は雨もなく涼しく快適な稜線を辿る。笹の広げに建つ笹平の避難小屋は立派できれいである。東破不山への急登にあえぎ、西破不山で早めの昼食。破不山は、地図では破風山になっており、山頂にも破不の標識と破風の標識が並んでいる。これではどちらが正しいのか判断がつかないが、本文では埼玉100山リストの表示に従った。緩やかな雁坂嶺を登りきれば後は下り一方である。日本三大峠の一つで

ある雁坂峠は、さすがに昔からの秩父往還(雁坂みち)の趣が豊かな落ち着いた場所である。昔の旅人が草鞋履きでとととと早足で歩く姿が目には浮かぶようである。最後は長い舗装道路で足の悲鳴を聞きながら西沢溪谷入口駐車場に到着した。下山後は笛吹の湯で汗を流し、中央高速の大渋滞を回避し青梅街道で帰路を辿ったが、これは大正解であった。本年度埼玉支部は、4月から武甲山、蕎麦粒山、平標山+巻機山、そして今回の夏山と山行を重ねてきたが、いずれも安全第一で無理をせず、事故もなく無事楽しい山行を重ねられた。また、今年から山行集会委員が交替でコースリーダーを担い、高齢者中心のグループの安全な登り方を目指し、リーダー養成を図ってきた。今回は、菊池さんにコースリーダーをお願いしたが、見事なリード振りでパーティーもばらけず、しかもコースタイム通りで歩きやすい歩程であった。ご本人は凄い健脚で1人であったら倍くらいのスピードでも歩けたのではないと思われるが、パーティーを楽しく、無事に、気持ちよく歩かせる技は立派である。山は登れる時もあれば登れないときもあるのは仕方ないが、常にパーティーが安全で楽しく山行を共にできるように努めていきたい。

参加者：松本敏夫、正田範満、宮川美知子、菊池武昭、稲越洋一、石塚昌孝、古川史典、森田勉、田中摩利子、富田容子、高橋努 以上11名



【埼玉 100 山 参加者からの報告】

10 月酉谷山

東 洋子

山行のお誘い文「酉谷山は、棒ノ折山から雲取山に至る都県境稜線（長沢背稜と呼ばれる）のほぼ中心部に聳える名峰であります。黒ドッケ・天目山とも呼ばれます。山頂からは奥多摩の山塊が一望できる形の良い山です。（略）奥多摩町日原側からは比較的容易に登れるのに比べて 秩父側からは良い登山道が無く登りにくい山です。今回は、秩父側・太陽寺入り口から大血川を辿り、山頂に至るルートを登ります。山と高原地図では破線の

ルートで一部登山道が不明瞭な箇所があります。危険な所はほとんどありませんが、道迷いには注意を要します。登山口周辺は、東京大学の演習林となっており、素晴らしい森林が見られます。」と、この文と山岳会唯一の友に誘われて、台風18号が大東島付近に近づく曇り空の10月4日（土）、13人で乗用車に分乗して大血川観光釣り場駐車場に車を止めて、出発（9:18）。

林道の工事中で川のこちら側・あちら側と川を渡り林道終点・登山道入り口（10:12）。

ここまでは「うたい文句」通りの素晴らしい林・森の中を歩き、ゆとりの山行。そして山道・登り。途中崩れてロープが張ってある所あり。足元の頼りない私はどう足を出すの?!と後ろに続く方に尋ねるほどで、何とかみんなについて進む。熊倉の分岐（12:29）ここで小休憩。尾根を目指して進み地図の黒に（13:12）。そして尾根伝いに酉谷山山頂 1718mにやっと到着（13:40）。ここで昼ごはん。山頂は紅葉が始まって木々が美しいがガスで景色はぼやける。30分ほどで下山開始。注意しながら進むが、石を落としてしまったり・・・でも自分が落ちたり、滑ったりしなくて良かった。登山道入り口に戻り（17:01）、駐車場到着（17:35）もう暗くなりかけていました。

はじめから酉谷山手前の黒周辺登山道は不明瞭とありましたが、先日の全国支部懇談会の講演「埼玉県の山岳遭難事例と安全対策」の話でも出てきていた「大血川溪流の道迷い」通りの山で、友人や一人ではとても登れない山だったと痛感しました。私のような者が、山岳救助隊の飯田さんが話されるような遭難・事故を起こす人になると感じた山行でした。事前の地図を見ての学習もなく、ただ集合場所に水と食料と雨具だけ持って集まって登る。もし天候が崩れたら・・・もし道に迷ったら・・・もし怪我でもしたら・・・事故を起こさないようにと入会した山岳会ですが、今までの登山が何と紙一重のものだったかと反省しています。年もとって、体力も落ち、頑張りもきかなくなってきたことを踏まえて、学習をしながら、山岳会での山行を楽しみたいと思っています。

蛇足ですが、今回の山行では、13人と人数も少なく、目が届き？リュックの背負い方が悪い、登山靴はもう少し本格的なものをはいた方が良かったか 歩く時の体重のかけ方とか・・・アドバイスを受けてました。ありがとうございました。無事に下山できたことを皆様に感謝です。13人目の「ユダ」になりそうだった！

翌日の日曜日は台風の影響で朝からかなりの雨。一日前の山行で本当に良かった。



【活動報告】

埼玉支部からは2コースを推薦

## 「親子登山おすすめコース」

日本山岳会のホームページに「親子で楽しむ山登り」というサイトがあります。これは、子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）の助成金の交付を受けて作成したのですが、埼玉の山として、平成25年度は「宝登山」を推薦し、必要な情報を提供しました。

今年度は、下記2コースを推薦しました。

### 1. 大高取山コース

登山コースは、東武鉄道またはJR越生駅から越生神社、砦跡の高取山、絶景の眺望が楽しめる幕岩、大高取山山頂、桂木観音経由で越生駅に戻る周回コースが写真と詳細な「おもしろ知識」とともに紹介されました。「ゆうパークおごせ」で入浴後、無料シャトルバスで越生駅に帰れます。

### 2. 日和田山・物見山コース

登山コースは、家族写真を撮るための予備調査を実施したのち、西武秩父線高麗駅から鹿台橋を渡り、日和田山登山口、金比羅神社で巾着田方面の眺望を楽しみ、日和田山山頂、高指山から一等三角点のある物見山を経由し、五常の滝、武蔵横手駅のコースが紹介されました。

なお、大高取山は高嶋徳紘会員が、日和田山・物見山コースは正田範満会員が担当しました。

(松本敏夫 記)

## 平成27年度

全国支部懇談会のご案内  
「四国の山はなぜ美しい」  
(第3回小島烏水祭併催)

- ・主催：四国支部
- ・日時：平成27年4月11日（土）12日（日）
- ・宿泊：「喜代美山荘」香川県高松市  
(JR高松駅からタクシーで10分、送迎あり)
- ・参加費：19,000円（予定）

登山は別途実費が必要

- ・日程
- ・4月11日、10:20 烏水祭開始、13:30 支部懇談会開始（講演会とシンポジウム）

・4月12日

Aコース：(定員30名)

飯野山（讃岐富士）422m登山、  
善通寺、本場讃岐うどん巡り

Bコース：(定員25名)

三嶺（1894m）登山後、四国支部管理の  
菅生ロッジ宿泊し、**13日（月）JR徳島駅で  
正午頃解散**

- ・締め切りは、1月末
- ・申込・お問い合わせ 瀧由喜子総務委員長  
電話：090-5914-8671

FAX：088-625-6215

メールアドレス：

draco65amd@m9.dion.ne.jp

埼玉支部事務局からのお願い

メールアドレスを変更された場合、事務局へのご連絡をお忘れなく！

事務局 富樫

toga913nt@ybb.ne.jp

【特別ページ】

全国支部懇談会において、埼玉県警察山岳救助隊飯田副隊長の講演資料の一部を紹介します。  
しっかり受け止めて、今後の登山を安全で楽しく！

【遭難救助活動で思う事】

1. 行方不明となる登山者は登山届が未提出で、迅速な救助捜索活動に支障あり。
2. 山岳会パーティー、多人数パーティーでもセルフレスキューが実施できない。
3. 山岳会パーティーでも、他人任せの登山をしない。

(地図が読めない、計画を知らないメンバー)

4. 山を知らない街ランナーは、トレールランでも山岳地を走ってはいけない。
5. 救助を要請しておいて、逃げないでほしい。
6. ツアー登山は、現在も無責任な業者やガイドがいるので十分注意。
7. 山ガール、山ボーイの遭難多発、山岳会先輩は勧誘し勉強させるべし。
8. 話しながら、地図を見ながら、〇〇しながら・・・という登山をしない。

以上

**日本山岳会編 新版「日本三百名山 登山ガイド」**

山と溪谷社よりが発刊されました。

取材・執筆は日本山岳会の全国32支部が分担して取材をし、晴れている時の写真と原稿執筆を担当しました。

埼玉支部は、至仏山と両神山を松本敏夫さん、谷川岳を富樫信樹さん、白砂山を高橋努さん、武甲山を山崎保夫さんが担当しました。

晴れた時の写真が必要なため、何度も写真を撮るために麓まで行って帰ってきました。

「日本三百名山登山ガイド」は内容もよく、写真がきれいなB5版本で上・中・下の3巻です。定価は各版が2,300円ですが、専用の注文書で会員は70%の1,610円で購入できます。

埼玉支部の会員異動

(平成26年10月30日現在 142名)

入会：小原茂延 (15585)

寺岡雅頭 (15610)

梶野 登 (15598)

新井晃一 (14155)

関喜美恵 (15617)

退会：前美知子 (14599)

坂口健一 (15351)

坂口詩織 (15352)

(会友異動)

入会：山口裕延 (K0011)

吉田恵一 (K0012)

鈴木つな子 (K0013)

増田榮子 (K0014)

和久津美幸 (K0015)

・・・・・・・・・・・・・・・・

■忘年山行(清掃登山)と忘年懇親会

参加申し込みは11月30日まで

詳細は、別途ご案内しています。

日時：12月13日(土)～14日(日)

宿泊：名栗げんきプラザ

日程：13日は二子山(雄岳・雌岳)登山

15時 ネパール登山・トレッキング報告

17時半 懇親会

14日は2コースを設定

○健脚登山コース(バスにて一の鳥居登山口

へー出発9:00ーシラジクボ10:30ー子持

山11:30ー大持山・妻坂峠14:00ー一の鳥

居登山口15:00ーバスで帰路

○らくらくコース(徒歩出発ー正丸峠9:00ー

旧正丸峠10:00ー正丸駅11:30解散)

費用：4000円(宿泊費+飲食費)

申込：富樫 信樹 090-8948-1336

toga913nt@ybb.ne.jp

申込締切：11月30日(日)まで。

バス利用の方は乗車駅をお知らせください。

また、第2日目の登山コースを付記下さい。

月	今後の事業予定
	(注)最終的な日時・場所、内容の変更などはホームページ、メールを参照下さい。
11月	・1～2 四季の山(秋)谷川岳、八海山 ☆☆ ・8日 読図講習(実地講習) ・8～9日 ボランティア登山情報交換会 (東海支部主催事業へ参加) ・17日 全国支部懇談会実行委員会(最終) ・30日 自然観察会(大高取山)
12月	・6日 年次晩餐会 ・13～14 忘年(清掃)山行、
27年 1月	・15日 自然保護シンポジウム (さいたま市民活動サポートセンター) ・17日 埼玉100山と新年懇談会 ☆ (関八州見晴台～高山不動尊、飯能で懇親会) ・24日 県警山岳救助隊の安全登山講習会 (県民活動センター)
2月	・14～15日 四季の山(冬)北八ヶ岳・天狗岳 ☆☆☆(アイゼン・ピッケル使用) ・21日 心肺蘇生法とAED使用の講習会 (大宮・川鍋ビル)
3月	・7日 埼玉100山(若御子山)☆☆
4月	・5日 総会記念山行 ・11～12日 第31回全国支部懇談会(四国支部) ・18日 平成27年度総会(埼玉会館) ・19日 ふれあい登山

【編集後記】全国支部懇談会を終え、さっそく報告原稿をいただきました。執筆者のみなさんありがとうございました。編集委員を募集しています。自宅で作業をしていただければ結構ですので、ぜひ手をあげてください。(H・O)

公益社団法人日本山岳会 埼玉支部報 第13号  
 2014年(平成26年)10月30日発行  
 公益社団法人日本山岳会埼玉支部  
 発行者：大久保春美

事務局：〒365-0053 鴻巣市緑町5-16 富樫方  
 e-mail: toga913nt@ybb.ne.jp

HP:

<http://jac.or.jp/info/shibudayori/saitama/index.html>